

時の足跡（青年）

時よ、私を苦しめてきた時よ
俺は今、ついに
ついにお前をあざ笑うことができる
ついにお前に唾を吐くことができる

俺は今、気体だ、鉱物だ、アミーバだ
そしてまた、魚だ、ネズミだ、サルだ
かつまた原始の狩猟民だ
土器を作る稲作民だ
雅な殿上人だ、武士だ
そして凡々な青年だ

時よ、お前にも消し去れはしなかった
地層を、化石を、遺跡を
また、日記を、文学を
いや、何よりも歴史そのものを

時よ、お前が歩く限り

必ず^{そくせき}足跡は残るのだ

そして俺たちはその足跡を頼りに
お前に頼着しないでいられる
お前には引き留められぬのだ
何故ならお前は前にしか進めないのだから

死が俺をわしづかみにする前に
俺は何と多くであり得ることか！
ああ、俺は既に何十億の年を生きた
そしてなお、新たなものに
なお新たなものになることができる

時よ進むがいい

お前の歩みは常に変らぬ
俺はお前よりはるかに速足
一度戻って再び
お前と肩を並べることもできる

進むがいいさ、時よ
俺には、はしこい足がある
進むがいいさ
進むがいいさ

(1982.4.23)